

カジノ法と「声」



カジノ法が 20 日に成立した。写真は読売新聞 21 日朝刊だが、置き去りにされたのは「依存症対策」だけではない。

朝日新聞 24 日「声」欄の投書が、それを明確に語っているので抜粋して紹介したい。

まずは滋賀県の山本真美さん(30)の「税金で浪費あおる政治 疑問」から—「カジノ法」が成立した。カジノを含む統合型リゾート（IR）実施法というそうだが、カジノ賭博解禁の法だ。今の日本は経済格差が大きく、家庭の経済事情も全く違う。教育、貧困、雇用、賃金など問題が山積みなのになぜギャンブルで遊ぶことを推進するカジノ法が優先なのか。多くの市民が感じるのと反対ではないか。

6 月、大阪で大きな地震。7 月には西日本に豪雨。広島、岡山を中心に 200 人を超える人が亡くなり、今も困っている人が大勢いる。1 日 1 日を乗り切るのが大変なのに、どうしてカジノなのだろう。カジノ法にはギャンブル依存症対策も盛り込まれたが、原因（カジノ）を作って、わざわざ対策する意味が分からないし、のめりこむ人を止める実効性はあるのだろうか。なぜ、こんなことにお金を使わせようとするのだろうか。政治が市民生活に目を向けず、浪費をあおることに非常に疑問を感じる。IR には巨額の税金が投入される。税金の使われ方を見直さなければならない。

次に、広島県の柴崎巖さん(79)の「カジノ法より被災者助けて」から—西日本を襲った豪雨で、広島県呉市の私が暮らす町は、電気や水道が止まりました。電気は復旧しましたが、水道はいまだに届かず、井戸水でしのいでいます。広島県の至るところでライフラインや交通網が断たれ、皆が困っています。私たちは生きることに精いっぱいです。カジノを含む統合型リゾート（IR）実施法を、与党などは強引に成立させました。参院定数を減らすどころか増やす改正公職選挙法も強行成立。死傷者が多く出て私たち被災者が苦しんでいる最中なのに、納税者に負担のかかる議員数増。カジノ法でバクチの遊び場なんて。それどころではありません。

豪雨被害で疲れて忘れるところでしたが、森友・加計問題。公正な行政、政治への信頼を傷つけたにもかかわらず、疑惑はそのままです。国会に安倍晋三首相の「腹心の友」という加計学園の加計孝太郎理事長を呼んで、疑惑をただすべきです。安倍首相は逃げな、忘れるな。国民の多くは納得していません。多くの課題はありますが森友・加計問題も決して忘れてはいけません。そして、被災者を助けてください。

(2018 年 7 月 28 日)